

IV各学年の取組

1年生の実践

- 1 主題名 みんなが使う物（4－（1）公德心・規則の尊重）
 （資料名「きいろいベンチ」文溪堂）

2 主題設定の理由

（1）価値観

本主題は、低学年における内容項目4－（1）「みんなが使うものを大切にし、約束やきまりを守る。」の価値をねらうものである。これは、社会人として生活する上で必要とされる公德心や社会規範を守ることでできる児童の育成を目指している。低学年の児童は、学校での集団生活を通して社会の基本的なルールを学ぶ。公共物を大切にし、人に迷惑をかけないで互いが気持ちよく生活できるように心掛けることは、社会の一員として守るべき公德である。さらに、みんなと約束したことや決められていることはしっかり守ろうとする中でルールの大切さを理解させたい。そのためには、公共物や公共施設の使い方や利用の仕方に目を向けさせ、なぜ大切に扱わなければならないのかを十分に考えさせることが必要である。

低学年の児童は、まだ自己中心的な面が強く、自分本位な行動をとることが多い。このことを考慮し、日常生活における身近な出来事を取り上げた資料「きいろいベンチ」を用いて、公共物の正しい使い方に気付いた男の子の気持ちや行動を考えさせることにより、みんなで使う物を大切にしようとする気持ちを養いたいと考え、本主題を設定した。

（2）児童観（男子12名 女子13名 計25名）

本学級の児童は、1学期から「廊下を走らない」「チャイム着席をする」などの学校のきまりを守らなければならないことを理解し、実行しようとしている。算数の「じこくとじかん」の学習を通して時間の観念も育ち、チャイム着席も意識してできるようになってきている。体育「鬼遊び」や「ボールゲーム」の学習では、友達と楽しく遊ぶ中でルールを守る大切さを理解している。国語の「本はともだち」の学習などで図書室を利用するときには、場に応じたマナーがあることが分かり、実践できている。

しかし、分かってはいても自分の興味のあることや楽しいことがあるとそれを優先してしまい、ルールやマナーが守れないこともしばしばある。そのたびに反省をし、改めようとするがなかなか改善できない児童もいる。また、他者の目があることができるが、誰も見ていないとできないこともある。

このような実態から児童は、毎日の生活や学習の中で理解はしていても実際にできないことがたくさんあり、自己中心的な考えの中で生活している。

そこで本時では、生活する中で自分のことだけでなく、周りの人たちのことも考えて行動することの大切さに気付かせながら、みんなが使うものを大切にする態度を養い、価値理解を図っていく。

（3）資料観

「紙飛行機をうまく飛ばそうとして、泥だらけの靴のままベンチに乗ったり、ブランコに立ち乗りしたりしているたかしとてつおの二人。泥だらけのベンチに気付かず座ってしまってスカートを汚してしまった女の子。そのスカートの泥を落とすおばあさんの姿を見て二人ははっとする。」という、日常的に起こりがちな事実を内容としている。本資料のように自分の遊びに夢中になり、周りの人にまで考えが及ばないという場面は、児童の普段の生活の中で往々にして見られることであり、女の子のスカートの汚れに気付かなければ、自分たちの行動を振り返ることもなくすぎてしまう日常生活のひとつである。日頃

よくある自分本位の欲望や衝動から、他の人のことが考えられなくなりがちな児童の心理や行動がよく表現されている資料である。

そこで、ベンチに泥靴のままあがってしまったたかしとてつおに焦点を当てて、その行動がいかに周りの人に迷惑をかけているのかを考えさせるとともに、自分自身の行為を思い起こさせ、公共物を使うときの注意や公共物を大切にしようとする気持ちを育てていきたい。

3 指導方針

<本時>

【課題をつかむ】

- 公共物に対する概念がまだ不十分であると思われるので、身の回りにある公共物から考えさせる。
- 「みんなが使うもの」の具体例がすぐに思いつかない場合は、こちらから例示する。
- パネルシアター風に登場人物の切り抜き絵や場面絵、ベンチなどを提示し、場面理解を助ける。

【価値を追求する】

- 話を場面ごとに区切り、場面ごとに登場人物の気持ちを考えさせていくようにする。
- 役割演技を取り入れたり、マイクなどの小道具を使ったりして登場人物になりきり、登場人物に共感できるようにする。
- 中心発問では、自分本位の行動が、他人に迷惑をかけてしまうことがあることに一人一人が気付けるようにワークシートを活用する。
- 中心発問では、自分の思いをすべて出せるよう、考える時間を十分にとり、机間指導で声掛けをしていく。

【価値の内面化】

- 振り返りの場面では、公共物を大切に扱えたよい感情を思い起こさせ、価値理解と実践への意欲化につながるようにする。
- 身近にいる人からの手紙で感謝の言葉をもらうことにより、みんなが使うものを大切にしようとする意識を高められるようにする。

<事後>

- 帰りの会の「今日のありがとう」などを使って、みんなで使うものを大切にできた例を教師が紹介し、児童も意識できるようにする。

4 本時の学習

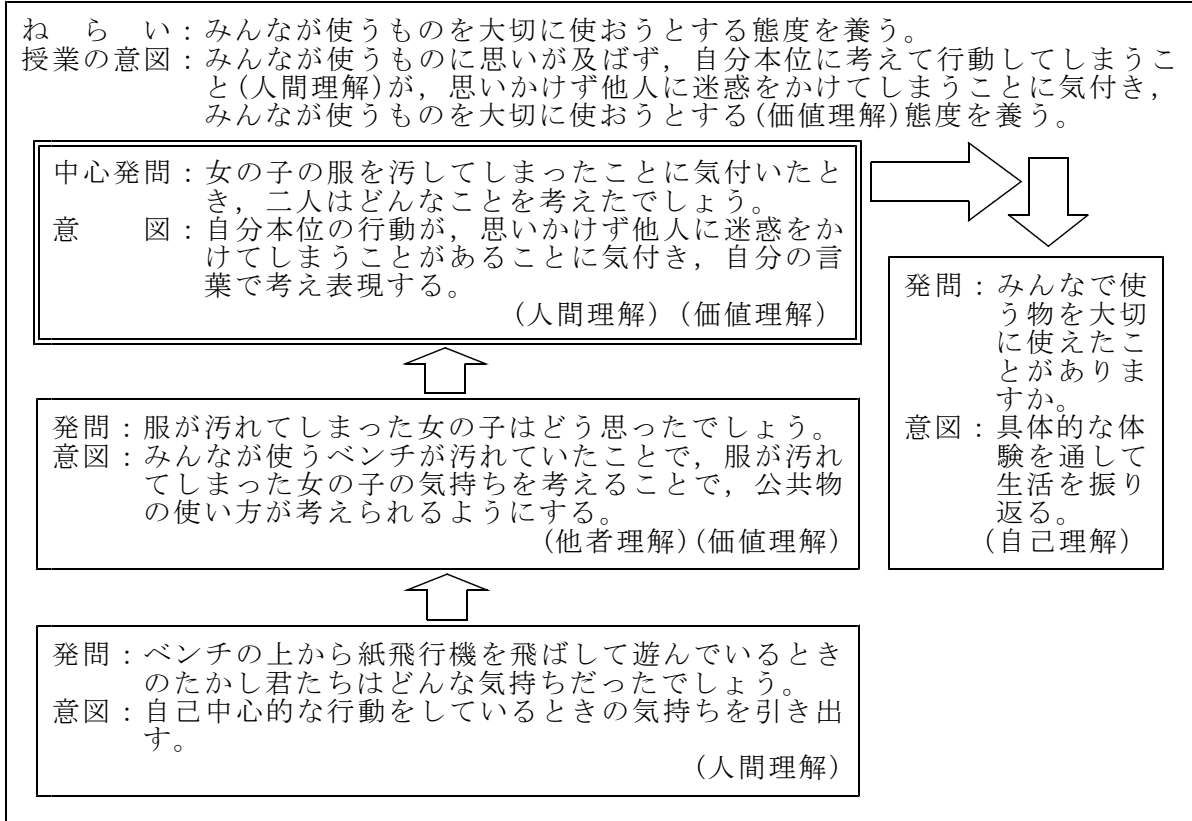
- (1) **ねらい** みんなが使う物を大切にしようとする態度を養う。
- (2) **準備** 教師：切り抜き絵、ワークシート、紙飛行機
児童：筆記用具

(3) 展開

過程	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点
課題をつかむ	1. みんなが使う物にはどんなものがあるかを発表する。 (みんなが使う物って、何がありますか。)	・水道 ・トイレ ・遊具 ・図書室の本	5分	○身の回りには、みんなで使う物がたくさんあることを意識させる。

<p>価値を追求する</p>	<p>2. 資料「きいろいベンチ」を読んで話し合う。</p> <p>①ベンチの上から紙飛行機を飛ばして遊んでいるときの二人の気持ちを考える。 (ベンチの上から紙飛行機を飛ばして遊んでいるとき、たかし君とてつお君はどんな気持ちだったでしょう。)</p> <p>②服を汚してしまった女の子の気持ちを考える。 (服が汚れてしまった女の子はどう思ったでしょう。)</p> <p>③そばにいたおばあさんの気持ちを考える。 (服が汚れてしまった女の子を見て、どう思ったでしょう。)</p> <p>④女の子の服を汚してしまったことに気付いたときの二人の気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>女の子の服をよごしてしまったことに気付いたとき、二人はどんなことを考えたでしょう。 (中心発問)</p> </div>	<p>30分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いところからだとよく飛ぶなあ。 ・ベンチの上から飛ばすのはおもしろいな。 ・汚れちゃっていやだな。 ・お母さんにおこられる。 ・みんながつかうものなのに、めいわくだな。 ・だれがベンチを汚したのかしら。 ・かわいそうに。 ・しかられるかな。 ・悪いことをしちゃったな。 ・ベンチの上から紙飛行機を飛ばさなければよかったな。 ・ぼくたちが汚しちゃったからふいてあげよう。 ・汚してごめんなさい。 	<p>○数名の児童に役割演技させることで、紙飛行機を飛ばすことに夢中でベンチを汚していることに気付かない二人の気持ちを引き出す。</p> <p>○黒板に場面絵や切り抜き絵を貼り付けながら資料を提示し、興味・関心をもたせる。</p> <p>○数名の児童に役割演技させることで、悲しい思いをしている女の子やおばあさんの気持ちを考えさせる。</p> <p>○自分本位の行動が、思いがけず他者に迷惑をかけてしまうことがあることに、一人一人が気付けるよう、ワークシートに記入させる。</p>
<p>価値を内面的に自覚する</p>	<p>3. これまでの自分を振り返る。 (みんなが使う物を大切に使うことができたことはありますか。)</p> <p>4. 図書室の先生からの手紙を聞く。</p>	<p>10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレのスリッパをそろえた。 ・ほうきが出しっぱなしになっていたから、片付けた。 	<p>○具体的な体験を発表し合い、生活を振り返ることができるようにする。</p> <p>○図書室がきちんと使えていたことの感謝の気持ちを知らせ、みんなが使う物を大切にしようとする意識を高められるようにする。</p>

5 資料分析図



6 授業記録（T：教師 C：児童）

T：女の子の服をよごしてしまったことに気付いたとき、二人はどんなことを考えたでしょう。（中心発問）

自分本位の行動が思いがけず他者に迷惑をかけてしまったことに気づき、反省する気持ちを考えさせる場面。

T：実は二人とも、遠くから女の子とおばあさんを見ていたんだって。服がよごれてやだなと思っている女の子を見て、二人はなんて考えたのかな。どんなこと思ったかな。今から紙に書いてもらいます。

ベンチの上から飛ばすと紙飛行機が遠くまで飛んだぞ。楽しいなあ。



スカートがよごれちゃった女の子はどんな気持ちかな。



あ～あ、スカートにどろがついちゃった。新しいスカートなのに。

(以下、ワークシートを基に伝え合い)

C：ぼくたちのせいで、女の子のスカートがよごれちゃった。だからこんどからベンチであそばないようにしよ。

C：かわいそうだなー。あやまりたいけど、おこられるのやだからなあ。

C：くつのまんまのらなきやよかった。あやまろう。

C：あーやんなければよかった。こんどからぜったいやらないぞー。

もうぜったいあんなことはしないぞー。

C：てつだおうかな。かわいそう。しなきやよかった。



7 板書



8 成果と課題 (○成果 ●課題)

○パネルシアター風に資料を読み聞かせることで、内容をよく理解し、登場人物の気持ちが考えやすくなった。

○ベンチや紙飛行機などの具体物を使って役割演技をさせることで、自分の気持ちを素直に表現する助けとなった。

○資料を区切って読み聞かせ、その後に考えさせることは1年生の実態に合っていて、内容をよく理解させることができた。

○黒板にイラストを貼り付けたり、動かしたりしながらパネルシアターの舞台として使いつつ、子どもの意見を吹き出しの形で板書することで、自分以外の考えに触れふれ、考えを広げることにつながった。

●中心発問の部分で、価値理解と人間理解どちらに重点を置くのかがあいまいだった。それによって役割演技で誰の気持ちを考えさせるかが変わった。

●終末の言葉がけが「～しましょう」と価値の押し付けなってしまうがちなので、「今日の勉強をいかしていけるといいね。」「いろんな考え方があるんだね。」など、最後の一言に注意していきたい。

●「公共物」を正しく捉えることがまだ難しかった。今回は導入で身近な「物」から「公共物」の話題にもっていったが、「場所」から入るなど、実態に応じて例示するものを選んでいけるとよい。